

4月1日 1914年宝塚少女歌劇（現在の宝塚歌劇団）の初公演が行われました。

1913年、箕面有馬電気軌道の創始者小林一三が、宝塚新温泉の余興として少女たちに歌を歌わせるための宝塚少女歌劇養成会を組織しました。

翌年の4月1日～5月31日まで宝塚新温泉で桃太郎を題材した歌劇『ドンブラコ』、『浮かれ達磨』、ダンス『胡蝶』、管弦合奏や合唱を披露しました。1918年には東京に進出し「帝国劇場」で公演を行いました。

1919年には宝塚少女歌劇養成会を解散し、宝塚音楽歌劇学校と宝塚少女歌劇団として発足しました。1923年には宝塚大劇場が完成し収容人数3000人。当時の宝塚は劇場指定席・温泉入場券・カレーライスが各30銭で「一圓あれば一日遊べる」総合娯楽施設と言われました。

1927年からはレビュー（フランス語で音楽、コント、踊り等で構成された華やかで時事風刺の効いた舞台エンターテインメントショー）が上演され始め、短髪の男役に人気が集まるようになります。「ターキー」と呼ばれた、水の江瀧子が国民的人気を集めていました。外国公演も行われアメリカやドイツ、イタリアなどにも遠征しています。

戦時中は敵性語である外来語のタイトルの演目が消滅し軍国主義的な演目が登場し、慰問公演が行われます。1943年から1946年までは劇場が閉鎖され、細々と慰問公演だけが継続されていました。戦後、スターとなったのが花組の越路吹雪&新珠三千代コンビ、雪組の春日野八千代&乙羽信子コンビでした。

宝塚と言えば、最も有名な演目が「ベルサイユのばら」ではないでしょうか。1974年に、長らく低迷していた宝塚に空前の宝塚ブームが起きました。その頃から少女のファンが急増し、宝塚音楽学校の倍率もそれまでの5倍から20倍前後の難関となり「東の東大、西のタカラヅカ」と言われるようになりました。

今でも、華やかな舞台で輝いているタカラジェンヌは少女たちの憧れに違いありませんね。「清く、正しく、美しく」なのです。

4月2日 1805年ハンス・クリスチャン・アンデルセンが生まれました。

デンマーク語では「ハンス・クレステヤン・アナスン」、デンマークのオーデンセの非常に貧しい家庭に生まれました。学校を中退して、オペラ歌手を目指したり、バレエ学校に在籍したりしましたが、劇場の支配人の助力で大学に入学することができました。

アンデルセンの童話がはじめて世にでたのは1835年、アンデルセン30歳のときで「子供に話して聞かせるお話」というタイトルの62ページの粗末な本だったそうです。「小クラウスと大クラウス」など3編の民話にもとづいた話と「小さいイーダの花」という創作童話が収められていました。

その一ヶ月前に「即興詩人」が出版と同時に大きな反響を呼び有名になっていたアンデルセンでしたが、童話に対する評価は決して高いものではありませんでした。しかし子供や貧しい人々に愛読されていることを知っていたアンデルセンは、その後も多くの創作童話を書き続けました。

3冊目の童話集におさめられたアンデルセンの代表作である「人魚姫」によって、童話もすばらしい文学であると認められ、アンデルセンは近代童話の確立者として名声を得ました。

アンデルセン童話で有名なのは「人魚姫」「親指姫」「はだかの王様」「マッチ売りの少女」「みにくいアヒルの子」などたくさんあります。悲しいお話も少なくないのですが、子供の頃に読んで、忘れられなかった話は「パンをふんだ娘」でした。

ドレスを汚したくないと思った娘が、ぬかるみにパンを投げて、その上を歩こうとしたら、そのままぬかるみに沈み地獄に落ちていきました。それでも、この娘は反省することがありませんでした。

ところが、この娘を哀れんで天国にいけるよう願ってくれる少女のおかげで、やっと天国に召されるのですが、それにしても救いがない・・・もちろん食べ物も粗末にははいけませんし高慢な気持ちを持ってはいけないうえに、水溜りを見るたびに、ちょっと恐ろしい、この話を思い出したものです。

また4月2日はアンデルセンの誕生日にちなみ 1966年国際児童図書評議会が「国際こどもの本の日」と制定しています。

4月3日 1961年NHKの「みんなのうた」の放送が始まりました。

このとき最初に放送されたのは「おお牧場はみどり」で、今までに1300曲を超える歌が紹介されています。ヒット曲もたくさん生まれましたし、あなたの好きな曲もあるでしょうね。

子供の頃に、どんな歌が歌われていたかで世代が分かります。最近では「新曲枠」の他に「再放送枠」や「お楽しみ枠」などがあって昔の曲が放送されます。懐かしいと思って聞く人も、初めて聞く人もいるでしょうが、世代を超えて一緒に歌える歌があるなんて素敵ですよ。

「みんなのうた」では、どんな歌が好きだったかと考えれば「北風小僧の寒太郎」「サラマンドラ」「メトロポリタン美術館」「小さな木の実」「おしりかじり虫」・・・

「虹と雪のバラード」や「ビューティフル・ネーム」「手紙 ～拝啓 十五の君へ～」 「WAになっておどろろ ～イレイアイエ～」なんて曲も「みんなのうた」で紹介されていたのです。

ラジオ体操も、音楽を聞けば少々ぎこちない動きかもしれませんが体操ができます。夏休みには小学生が、会社では大人たちが、朝の公園ではお年寄りたちが、それぞれラジオ体操をしています。

「みんなのうた」も「ラジオ体操」もNHKのたゆまぬ普及のおかげで、世代を超えた共通項が持てるって、多分世界の中でも日本だけじゃないかと思えます。こういう文化も悪くないですよ。

4月4日 1581年海賊フランシス・ドレークがエリザベス女王からナイトの爵位を受けました。

海賊?! と聞けば、見過ごすことができない!!

フランシス・ドレークは若い頃にスペイン船に奇襲されたことを恨みに思い、スペインの船を集中的に襲っていた海賊だったそうです。その財宝をイギリスに持ち帰ることで女王のお気に入りとなりました。

1577年には5隻の船団を組んで世界一周の旅に出かけます。そして1578年にはドレーク海峡とホーン岬を発見し、1580年9月26日イギリス人初の世界周航に成功しました。これはマゼランに続く2番目です。

ドレークは海賊行為を繰り返しながら航海を続け莫大な財宝を手に入れました。東南アジアでは丁字という香料を大量に仕入れ財産総額は60万ポンドを超えていたと言われます。ドレークの船に投資した人達への配当はなんと47倍にも及びました。その額は当時のイギリスの国庫金額を上回るほどだったとか。

とくに一番の出資者だったエリザベス女王には30万ポンドの配当金が入り、女王はドレークに「ナイト」の称号を与え「私の海賊」と言って彼の労をねぎらったのです。

その後も、ドレークはスペイン船を襲撃し、当時無敵艦隊といわれたスペイン艦隊まで撃破しています。こうしてイギリスに莫大な利益をイギリスにもたらし、後に「東インド会社」となる資金につながったというわけです。

海賊のドレイクがイギリスの植民地政策と世界支配の根幹を作ったと言っても過言ではないのです。奪ったお金で・・・当時のヨーロッパは、奴隷貿易や植民地政策で甘い汁を吸っていたってことですね。ちょっとやるせない感じです。

4月5日 1722年オランダ海軍提督、ヤコブ・ロッゲフェーンがイースター島を発見しました。

発見日がイースターであったことにちなんで「イースター島」と名づけました。イースター島は、巨大な石の彫刻モアイで有名です。モアイは、大小さまざまな大きさがあり、作成途中で放棄されたものまで含めれば、1000体ほどあるそうです。

現在、海に面した高台に立つモアイは近代になって復元されたもので、特に最近では香川県高松市に本社のある「タダノ」によって復元されたことは、よく知られています。

ところで、ヤコブ・ロッゲフェーンはイースター島で住民2~3千人を見たと言っています。発見しただけで、ヨーロッパ人主体の表現で、高慢な感じもしますよね。

ヤコブ・ロッゲフェーンは法律を学び、裁判官を務めていた人ですが、62歳にして航海に出ています。彼を海に駆り立てたのは、父親がいつも話してくれた「テッラ・オーストラル」のことでした。

数学者で、地理学・天文学、また航海に関する知識があった父親は、南半球にあると言われていた幻の大陸「テッラ・オーストラル」の研究をしていました。地球が丸いと言うことは、古代ギリシアの時代から言われていたことですが、北半球に陸地が偏っているのは、バランスが悪いので、南半球にも大きな大陸があると思われていたのです。

62歳と言えば、定年退職して老後を安穏と暮らしたいと思う年頃ですが、ヤコブ・ロッゲフェーンは、子供の頃からの夢をかなえたいと思ったのでしょうか。もう、人生の終わりも見える年齢になって命がけの航海も怖くないと思ったのかもしれませんが。

南アメリカの先端は、ホーン岬とドレーク海峡です。マゼラン海峡はその北側にあり、マゼランはフエゴ島をテッラ・オーストラルの北端だと思ったそうです。しかし、実は島だったことはフランシス・ドレークが証明したことになります。

地球上のすべての島々にヨーロッパ人が足跡をつけるまでに、いったいどのくらいの人々が大海原に漕ぎ出していったのでしょうか。ロマンがありますが、静かに暮らしていた島民には大迷惑だったことでしょうね。

4月6日 1889年 板倉勝静が亡くなっています。

いたくらかつきよ、第7代備中松山藩主で江戸幕府の老中を務めた人です。山田方谷を登用して藩政を改革したことで有名です。

板倉勝静の祖父は、寛政の改革を行った松平定信です。そして高祖父（ひいひいおじいさん）は徳川吉宗になり、吉宗によって行われた政治改革は享保の改革ですから、備中松山藩における藩政改革の成功は、まさに血のなせる業と言うべきかもしれません。

勝静と懇意にしていた勝海舟は、「あのような時代でなければ、祖父の定信公以上の名君になれていたであろう。巡り合わせが不幸だったとしか言いようが無い」と語り、その名君振りを称えているそうです。

大政奉還の実現にも関与しており、幕閣としてまた松平家の一族として徳川幕府の立場にたって政局の安定に尽力しています。戊辰戦争では函館まで赴き、新政府と戦っています。

大河ドラマでも「徳川慶喜」「篤姫」「龍馬伝」には勝静が出てきます。小林宏史さんが演じた勝静と斉木しげるさんが演じた勝静では、ずいぶんイメージが違っていました。岡山の片田舎である高梁の藩主が、幕末の大きなうねりの中で翻弄される様は、もうひとつの大河ドラマと言えるでしょう。

山田方谷と板倉勝静を大河ドラマに取り上げてもらおうという動きがあるそうですが、大河ドラマとまでは行かなくても、ドラマにすればなかなか面白いものになりそうです。

4月7日 1827年薬剤師ジョン・ウォーカーによってマッチの販売が始まりました。

マッチか〜・・・そういえば、最近とんと見かけなくなったけれど。うちの町内会では、年末の夜警の時に、相変わらず「マッチ1本 火事の元」なんて言っていますが、マッチを使っている家庭ってあるのでしょうか？せいぜいライターや着火器具かな〜

マッチが最もたくさん生産されていたのは1970年 663.000 マッチトン（並型のマッチ箱で約47億7千万個）、それが近年には14.000 マッチトン（約1億個） なんと47分の1に減っています。業界ではマッチトンと言う単位を使っているのです。1マッチトンは並型のマッチ箱7200箱で1箱には、だいたい40〜45本のマッチが入っているそうです。

そりゃ、見かけなくなったはずですね。

昔には、ご近所からおかずなどのお裾分けがあった時には「おうつり」と言って、マッチを数本添えて器を返していました。マッチってとても貴重なものだったのです。

ところで、マッチの生産は20世紀の初頭には、日本はスウェーデン、アメリカと並び世界三大生産国でした。当時は、国内生産量の8割が輸出に回されていたそうです。原料の一つである硫黄が豊富であったこと、女性や子供が低賃金でマッチを加工し、箱貼りも二束三文の内職で賄われていたことで、世界的なシェアを誇っていたようです。

日本燐寸工業会のサイトを見れば、会員企業は20社、そのほとんどが神戸・姫路に集中しています。岡山にも1社「中外燐寸社」（たいこじし）があります。

マッチのコレクションを趣味にしている人もいましたね。小さなマッチ箱に意匠を凝らした芸術がつまっていましたから、集めたくなるのも分かります。マッチラベルデザイナーも活躍していたのです。

マッチ箱を集めて千代紙を張って、小さなダンスを作って遊んだりもしました。マッチでパズルをしたり、タワーや橋を作ったりして夏休みの宿題にしたこともありました……。

そうそう、西部劇を見て、カウボーイが靴の裏でシュッとマッチに火をつけるのを見て、真似たこともありました。もちろん普通のマッチでは火はつきません……。

マッチの会社のサイトを見ていたら、バースデーケーキのろうそくに火をつけるための軸の長いマッチや災害時保存用の缶詰マッチが紹介されていました。またアロマキャンドルにマッチで火をつけていました。お仏壇の蠟燭もマッチで……とも。

ご飯を炊くために、かまどで使うマッチとは異なる現代の優雅でゆとりのマッチのイメージです。タバコを吸う時には、ダンヒルのライターの方が格好いいかもしれませんが、リラックスタイムにアロマキャンドルを燃やすときはマッチを擦るのも悪くない気がします。

4月8日 1820年エーゲ海のメロス島で「ミロのヴィーナス」が発見されました。

ミロス島の農夫ヨルゴスが掘り出した2個の塊に興味を抱いた若いフランス人オリヴィエ・ヴーティエは、さらに他の断片を農夫に探して貰ったところ合計6個の断片が発掘されました。それらをパズルのように組み合わせると、上半身裸体の美しい女性像になりました。

この彫像は別々に加工された上半身、両脚、左腕、左足などの部分が、はめ込みの技術で出来上がっていました。これは紀元前100年頃のギリシアでは一般的に用いられた技法でした。

両腕は発見される事はありませんでしたが、この像は腕輪、イヤリング、髪をまとめる帯などの鉄製の装飾品により飾られていたと考えられており、そのための固定の穴が残っています。装飾品がついていれば、さぞかし豪華なものであったに違いありません。

ミロは、ミロス島のロマンス語形で、ヴィーナスはギリシアのオリンポス12神の中の愛と美の女神アフロディテのラテン名です。美しい黄金比によってできた像を人々はヴィーナスに違いないと呼んでいます。ミロ島で崇拝されていた海の神、アンフィトリテの可能性もあるといわれています。

この像に属すると信ぜられる林檎を持った左手と右前腕がともに発見されていたという資料もあるそうですが、この不完全の像であるがゆえに、長い間人々を魅了したのだとも言われています。

発見者たちからトルコの役人の手に渡り、その後フランスの軍人ジュール・デュモン・デュルヴィルから美しい女神像のうわさを聞き及んだフランスの駐トルコ大使のリビエール侯爵が購入、侯爵が1821年フランス国王ルイ18世に献上しました。

そして現在、ルーブル美術館の至宝といわれています。1964年には、東京と京都で特別公開されています。海外での展示、前にも後にもそれ1回きりです。

4月9日 1995年東京都知事選で青島幸男が、大阪府知事選で横山ノックがそれぞれ当選しました。

いわゆるタレント議員として参議院議員を経験し、抜群の知名度で東京、大阪という日本2大都府の首長に選ばれました。

タレント知事と言えば、石原前東京都知事、東国原前宮崎県知事、田中康夫前長野県知事、橋本大二郎前高知県知事、橋下前大阪府知事、森田千葉県知事と、案外いるんだな・・・という感じですが1995年に、こんなふざけた(?)人が、二人も知事になるなんて、どんな年だったのでしょうか？！

1995年は阪神淡路大震災が起こり、オウム真理教によるサリン事件が起こっています。総理は村山さん、若貴が相撲界で活躍し、芸能界では安室奈美恵、trf、華原朋美といった小室ファミリーが全盛期を向かえ、公立の小中学校が隔週で土曜日が休みになっています。

バブルが崩壊したとはいえ、なんとなく浮かれ気味だったところに、震災やらサリン事件やらで安全神話が崩れたという時代だったのでしょうか？

青島氏も横山氏も、知事としての評価は必ずしも高くないようです。特に横山氏のスキャンダルでの辞職は残念なものでした。二人とも1932年生まれで、亡くなったのも2006年12月(青島氏)2007年5月(横山氏)と相次いでいます。

今は、当時に比べリーダーに求める資質は確かに変わっていると思います。また政治に対する不信が強まり、厳しい目で政治家を見るようになったかもしれません。まあ、そんな時代もあったね～と言う感じです。

4月10日 1909年 淀川長治が生まれました。

淀川さんの映画解説を聞いていると、どんな映画も面白い映画に変わってしまう気がしていました。まるで魔法のようです。独特の語り口調が、人々を惹きつけるのですよね。1966年から始まった「日曜洋画劇場」の解

説を亡くなる前日まで32年間務めました。

長い期間映画を見れば名解説者になれるわけではないし、たくさん見れば、よい解説ができるというわけでもないでしょう。人生経験が豊富ならば映画のよさが分かるわけでもないと思います。

淀川さんの解説が魅力的なのは、彼が人でも物でも、まず好きだと思えるところから始めるからだろうと思います。疑心暗鬼で非難めいた気持ちで映画を見たとしたら、あれほど多くの人に受け入れられる解説はできないでしょう。

淀川さんは言っています。「四歳から映画を見てきて、何が勉強になったか。キザですけど、愛ですね。次は勇気。次に誠実さ。映画館は人間勉強の一番の教室だね」と。

また映画には、国境がないと言っています。「映画とは国と国の垣根をなくすことね。映画とは世界の言葉を持っていることね。映画とはみんなが見るものね。映画とは人間を知ることね。これほど人間について教えてくれるものはないのね」民族が違って、話す言葉が違っていても人間はみんな同じで分かり合えるということですね。

時間があれば、DVDを見ています。見たい映画はいろいろあるけれども、そんなにたくさん見ることはできないですね。淀川さんが、どんな映画を薦めていたか、もう一度調べてみたいと思います。

それでは今日のクリーム、ご期待ください。サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ・・・

4月11日 1903年 金子みすゞが生まれました。

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。

「ばか」っていう
と
「ばか」っていう。

「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。

そうして、あとで
さみしくなって、

「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

2011年の震災後、TVではCMが自粛されその代わりに、何度も流れていたのが金子みすゞの詩でしたね。

大正末期、優れた童話童謡がたくさん発表されていた頃、彗星のごとく現れ、ひときわ光を放っていたのが金子みすゞでした。20歳で詩を書き始め、鮮烈なデビューを飾ったみすゞは西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されるなど、めざましい活躍をしていました。しかし、彼女の死後作品が散逸し幻の童謡詩人と言われました。

愛娘を夫に渡さないようにと遺言を残して26歳で自殺したのですが、「金持ちの娘の自由気ままな恋愛の破産」などと、軽薄な文学少女の死のようにマスコミに書かれていたと言いますから、世間の反応は冷たいものだったのでしょう。作品が散逸したのも、そういう理由からかもしれません。

児童文学者の矢崎節夫氏は「日本童謡集」に掲載された「大漁」という詩に衝撃を受け、みすゞの作品を発掘していきました。没後50年余を経た1982年、512篇の遺稿集を発見しました。

1984年に「金子みすゞ全集」が発行されるや一気に有名になり、小学校の教科書に採用されたり、大学入試の問題に引用されたりしました。みすゞの生誕100年目にあたる2003年4月11日には生家跡に金子みすゞ記念館が開館しています。

何十年たっても、人の心を引き付けるものは同じなのですね。いいものは、いい！
繊細なのにユーモアがあって、程よいリズム感とオノマトペが親しみを感じさせます。やさしくて純粹なところが魅力なのでしょうね。

4月12日 1955年ジョナス・ソーク博士によって開発されたポリオワクチンの安全性が証明されました。

ポリオは急性灰白髄炎とも呼ばれ、ポリオウイルスによって発症する感染症です。ポリオウイルスが人の口の中に入って腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスが便とともに排泄され便を介してさらに他の人に感染します。5歳以下の小児の罹患率が高いことから小児麻痺とも言われますが、大人が罹患することもあります。

日本では1960年にポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりました。1961年よりワクチンの接種が始まり、2年後には患者が100人まで激減しています。1981年以後ポリオは発生しておらず、2000年にWHOに対しポリオの根絶を報告しました。

ポリオワクチンには、生ワクチン（経口）と不活性（皮下注射）があり、今は不活性のみ行われています。今更ながらポリオの生ワクチンを飲む意味が分かりました。口からウイルスが入ってくるからだったのですね。

ジョナス・ソーク博士は、ポリオワクチンの開発に際して個人的な利益を一切求めなかったと言います。幼い子供が罹患する割合が高いポリオの根絶のために、少しでも早くワクチンの開発をしたいと情熱を燃やしました。

テレビのインタビューで「誰がこのワクチンの特許を保有しているのか」と聞かれたのに対して「特許は存在しない。太陽に特許は存在しないでしょう。」と述べたそうです。「医は仁術」とは、こういうことを言うのですね。

4月13日 喫茶店の日

1888年 東京下谷黒門町に日本初のコーヒー専門店「可否茶館」が開店したことにちなんで、喫茶店の日になりました。1階がビリヤード場、2階が喫茶室の洋館で、1杯2銭の牛乳よりも安い1銭5厘で提供していましたが、わずか5年で閉店しています。

その後、日本で喫茶店がブームを起こすのは、昭和初期1920年代です。当時の値段は1杯10銭だったそうです。戦時中はコーヒーが贅沢品と言われ輸入制限されたので、喫茶店がどんどん閉鎖してきました。

戦後はジャズ喫茶や歌声喫茶が人気になっています。1960年代には純喫茶といわれる味にこだわりを持った店が増えました。1970年代の漫画喫茶、インベーダーゲームが流行ったときにゲーム喫茶、1980年代には大手チェーン店による店が増えていきました。

喫茶店は本来のお茶を楽しむ以外に、情報交換の場であったり、おしゃべりをして楽しむ場であったりしました。小説家や漫画家が喫茶店で作品を仕上げるなんて、うそだか本当だか知りませんが、よく聞く話です。待ち合わせに使ったり、時間をつぶすために寄ったり。

猫カフェとかアロマカフェなんて、癒しの場であったりするのですよね。アートな空間を演出しながらコーヒーを飲めるようにしたお店もありますね。

人が集うところに文化が育つのか、文化とともに人が集うのか、喫茶店は多くの文化人や政治家、革命家を見てきたようです。

おっちゃんもブラウンでテイクインできるお店を考えています。ちょっと楽しい空間を提供できればいいなあと思っていますので、応援してください！

4月14日 1912年 豪華客船タイタニック号がニューファントランド島沖で氷山に衝突しました。

沈没したのは15日未明で死者は1513人に上りました。不沈と言われていた豪華客船の、しかも処女航海で、乗員乗客の三分の二以上が亡くなるという、まれに見る悲惨な海難事故でした。

そのため、タイタニックに関する多くの映画や音楽、小説が作られました。検証のドキュメンタリーや沈没しているタイタニックの様子を調査した番組など、事故から100年経っても多くの人の関心を集めています。

なぜ沈んだかには今もいろいろな説があるようですが、決定的な原因があったと言うより、不幸な要因が多く重なったというのが、本当のところではないかと思います。設計者にしても海運会社関係者や船長をはじめとする乗組員にとって「想定外」だったのでしょう。自然をなめてはいけませんね。

タイタニックと同時期に造られた姉妹船ともいえる、オリンピックとブリタニックという船があります。構造や規模がほぼ同じです。タイタニックとブリタニックが、どちらも短命であったのに比べ、オリンピックは24年の長い間就航しています。

戦艦榛名や南極観測船宗谷のように長く就航できる船、戦艦大和のように短命の船、運命というか、人ばかりでなく船にもそういうものがあるのかもしれませんが。ちょっと不思議な気がします。

4月15日 1969年 本田技研工業がスーパーセダン HONDA 1300の発売を発表しました。

2輪車や軽自動車を主力としていた本田技研工業が小型車市場に本格的に進出した最初の車種です。

この車の特徴は、本田宗一郎があくまでこだわった空冷式であったことです。当時すでにこのクラスの車では水冷式が主流でしたので、技術スタッフや副社長の藤原武夫も不安でしたが、宗一郎を翻意させることはできませんでした。価格はスタンダードクラスで48万円、デラックスクラスで65万円程度でした。

ところで ホンダ車の最近の売れ筋は N ONE だそうです。軽自動車の中で最も低燃費で、車内空間の広さやシートアレンジの良さなどの使い勝手のよさが人気なのだそうです。

ホンダのイメージを一新したのは、「シティー」ではなかったでしょうか。「トルボーイ」と呼ばれユニークなデザインで人気車種となりました。またそのときのCMも若い人の感覚で、楽しく、ホンダのスポーティさを強烈に印象付けました。

ホンダのCMといえば、もう1年前になりますが「負けるもんか」は、インパクトがありましたね。60回目のADCグランプリを受賞しています。

『負けるもんか』は本田宗一郎の言葉で、ライバル会社や体制など世の中に対する反骨心から使っていた言葉だったそうです。今の若い人たちには、負けるもんかの気概はあまり、ないかもしれません。でも自分自身を超えて1歩踏み出そうと言えば、多くの人たちの共感を得ることができる考えたものでした。

このCMに背中を押された人、勇気付けられた人、発破をかけられた人、いるのではないのでしょうか？おっちゃんも、その一人です。

4月16日 1889年 チャールズ・チャップリンが生まれました。

チャップリンと言えば、ちょびひげに山高帽、だぶだぶズボンにドタ靴、ステッキのユーモラスな姿を思い浮かべます。

ベルトコンベアーの前でこっけいに働く姿が印象的な「モダンタイムス」美味しそうに靴を食べる「黄金狂時代」音楽を聴くだけで心がキュンとなってしまう「ライムライト」ヒットラーを批判した「独裁者」……。

権力者やお金持ちを皮肉っぽく表現し、今の時代そのままでもいいの？と疑問を投げかける作風に、高校生の頃だったか夢中になりました。

チャップリンが、映画の脚本、演出、主演、音楽を自分で担当し、多才振りを発揮しています。風采の上がない主人公を演じながら実は、すごい人なんだ～と感心していました。

チャップリンは親日家と言われ、運転手や秘書など多くの日本人を雇っていたそうです。また4回来日しています。古きよき日本の京都や戦前の長良川の鵜飼を大いに気に入ったのだとか。

1932年の5・15事件のとき、ちょうど来日しており、もうちょっとのことで暗殺の対象にされるどころだったなんて話もあるようです。

1936年に来日したときには、淀川長治と会見しており、以来淀川はチャップリン映画の第一人者となります。

高校生のときに見たのと、今また見るのとの、感じ方が違うでしょうね。少しは人間が成長しているでしょうか？ちょっと不安ですが、またチャップリン映画を見てみようかな。

4月17日 恐竜の日

1923年4月17日アメリカの動物学者ロイ・チャップマン・アンドリュースがゴビ砂漠へ出発したことに因みます。この探検で恐竜の卵の化石を世界で初めて発見しました。これは後に獣脚類のオヴィラプトルのものだと分かりました。

でも、なんで恐竜の日なのか？実際に卵の化石を発見したのは6月13日だし、ゴビ砂漠に出発したと言っても北京からです。誰かの陰謀だとしても恐竜の日なんて面白いですね！

ロイ・チャップマン・アンドリュースはインディアン・ジョーンズのモデルになった一人とも言われ、クジラ、サメ、ニシキヘビ、オオカミ、盗賊や中国兵などに襲われ、危機一髪の状況に何度も遭遇しながら多くの探検をしました。

恐竜に詳しい人は、よくご存知でしょうが、恐ろしい竜と言うのは「恐ろしいほど大きいトカゲ」という意味で、リチャード・オーウェンが命名したのです。肉食のちょっと恐ろしいのも、草食のやさしいのも恐竜なのですね……。

4月18日 1931年明石市で原人と思われる化石人骨が発見されました。

恐竜の次は、明石原人？というわけで、考古学の話が続きますね。しかし、この化石人骨は、東京大空襲の際に発見者の直良信夫宅で消失しており、原人であったかそれとも縄文時代以降の人骨であったか確かなことは分からず終いなのです。

発見当時は、直良がアマチュア考古学者だったので、この人骨化石に関して専門家には、全く相手にされないままでした。そこで、東京帝国大学の松村先生に直接鑑定を依頼したのですが、石膏模型を製作した程度で鑑定に結論は出ませんでした。その後空襲で消失し、石膏模型さえも忘れられていました。

松村先生の後任である長谷部先生が、忘れられていた石膏模型を見つけ、原人のものではないかと主張しましたが、明石市の発見現場の発掘に失敗し、証明することはできませんでした。1982年にはコンピュータ解析によって、縄文以降の人骨であるとされ、原人説は否定されています。

今となっては原物もなくなっているし、開発によって発掘現場の露出がなくなりつつあり、今後の発掘は期待できない状況のようです。明石に原人がいたとしたら、岡山からは近いしちょっと面白いなあと思いますが、真偽のほどは闇の中です。

おっちゃんたちが歴史を勉強していた頃でさえ原人説が否定されていましたが、三ヶ日原人だとか、牛川人骨、葛生原人など教科書に出てきていて、なんだか夢があって好きだったのですが……。もう都会には発掘調査ができるような場所はないようです。

4月19日 1903年ロシア・キシニョフで大規模なユダヤ人迫害（ポグロム）がおこりました。

ユダヤ人の迫害といえば、ホロコーストが有名ですが、ロシアにおけるポグロムもユダヤ人迫害を表す言葉です。19世紀末から20世紀初頭にかけて、帝政ロシアでは激しいユダヤ人虐殺が進行していました。

政府が社会的な不満の解決をユダヤ人排斥主義に誘導したので助長されたと言われています。

ヒトラーによるユダヤ人迫害が発生するまで、ロシア帝国はユダヤ人が最も大量に殺された国だったのです。「ポグロム」はロシアから東ヨーロッパにかけて大規模に広がり、1881年から1910年まで、300万人近くのユダヤ人が、ロシアを離れて他国へと移住し、シオニズム運動を推進しました。移住したユダヤ人の7割がアメリカ合衆国に移住しました。

このポグロムについて描いた有名なお話が「屋根の上のバイオリン弾き」です。ミュージカルがよく知られていますが、ショーレム・アレイヘムの短篇『牛乳屋テヴィエ』が原作です。1964年から1972年までブロードウェイ・ミュージカルとしてロングラン上演されました。

『屋根の上のバイオリン弾き』という題名は、昔ローマ皇帝ネロがユダヤ人を大虐殺した時、逃げまどう群衆の中で、ひとり屋根の上でバイオリンを弾く男がいたという話をシャガールが絵に描いていることから名づけられました。

日本でも森繁久彌さんが、900回にわたって主演したことで、よく知られています。劇中歌の「サンライズ・サンセット」の歌詞は、迫害によるさすらいの暮らしを考えれば、意味深い気がします。

4月20日 慶長3年3月15日（1598年4月20日グレゴリオ暦）豊臣秀吉による醍醐の花見が開かれました。

秀吉の生涯を描いたお話には、必ずこの花見は出てきますね。何分にも派手な催しであったし、その5ヶ月後に秀吉が亡くなっているので、栄華を尽くして散っていった秀吉の生涯を象徴的に表した名場面となるでしょう。

昔から広大な伽藍を持った名刹として知られていた醍醐寺でしたが、応仁・文明の乱のため荒廃していたところ、秀吉はこの花見のために三宝院や金堂などの再建を命じ、三宝院庭園を造営、畿内各国から桜の木を七百本集め境内に植えさせました。

配下の五奉行に命じて支度を整えさせ、伴の女房たちには三回も衣装替えをさせるための着物すべてを島津義久に命じて作らせたそうです。

また全国各地から銘菓・銘酒・山海の珍味・織物・陶磁器・宝飾品・調度品などを集め、醍醐寺の山（笠取山）の道すがらに置き、好きなだけ取らせたといえます。

これぞという武将には、アトラクションとも言える趣向を凝らした茶屋を作らせ、そこで茶を嗜んだり食事をしたり遊んだりしたのだそうです。

今の暦で4月20日と言えば、ちょっと遅咲きの桜なのかもしれませんが、秀吉には花より団子だったのか、咲かぬなら咲かせてみせよう・・・と何か工夫をしたのかもしれませんが。

諸大名からその配下の者など約1300名を従えて盛大に催した花見の宴にちなんで、今でも醍醐寺では毎年4月の第2日曜日に「豊太閤花見行列」が開催され、終日境内は賑わうのだそうです。

この花見に気をよくした秀吉は、秋に紅葉狩りの計画をたて、醍醐寺にたくさんのモミジを植えましたが、残念なことに秋になる前に亡くなってしまいました。醍醐寺の紅葉は、秀吉が後世の人々に残した形見と言えましょう。

4月21日 1875年高木貞治が生まれました。

数学の教科書でよく見かけた名前ですね。数学者に興味を持つほど数学が好きではなかったから、見たことのある名前・・・って程度でしか覚えていませんでしたが。

高木氏は 東京帝国大学理学部を卒業し、東大大学院で数学を学んだ後、文部省からの命令でドイツに留学しました。当時ドイツは科学研究のメッカであり、特に数学分野は世界一の水準でした。

ベルリン大学の数学界の第一人者、フロベニウス教授は「最近、外国人がしきりにドイツへ科学の勉強にやってくる。アメリカ人も来るし、いろんな国からも来る。近頃では日本人さえやって来た。そのうち猿も来るだろう」とある挨拶の中で述べたそうです。日本人、そして東洋人がまだ西欧に認められていない時代だと言うことを如実に表しています。

ところが高木氏は、1850年来、およそ百年もの間、難問と言われ誰も解けなかった「クロネッカーの青春の夢」を世界ではじめて「類対論」によって解き明かしました。それによって世界中の誰もが認める数学者となり日本の数学界は、一躍世界のトップクラスと認められました。

高木氏は岐阜県本巣郡数屋村（現・本巣市）の出身で、幼いころに、村役場の収入役をしていた実母の兄の養子になりました。幼い頃から記憶力がよく、小学校は6年の教育課程を3年で習得し卒業したのだそうです。

子供の頃から養父に厳しくしつけられ、そのおかげで外国の人にも負けない根性と気力が養われたようです。

1936年に制定された数学のノーベル賞と言われるフィールズ賞の第1回選定委員になっています。もしこの賞がもっと早く作られていたら、間違いなく高木氏も受賞していたことでしょう。

4月22日 1922年健康保険法が公布されました。

被保険者は工場法と鉱業法の適用を受けている企業で働く常用従業者が対象で、保険料は事業主と従業者が負担し保険料は賃金の3%でした。臨時社員は対象外でした。

実際に保険が給付されるのは1927年からで業者の傷病に対する療養(現物給付)と労働不能に対する手当金が中心でした。この給付は本人だけが対象で家族は除外されました。当時は大企業の社員のみが恩恵に預かっており、総就業人口の3000万人のうち、わずか200万人程度だったようです。

1938年には厚生省が設立され、国民健康保険制度が農村を対象に成立しました。まだ任意加入だったようです。しかも医療費の30%~45%を本人自身が負担する制度なので、貧しい人たちには十分な医療保険の機能を果たしていませんでした。今のようになるとなるのは1961年4月からです。

経済が成長しているときには、保険制度も順調でした。市町村の国民健康保険の加入者で最も多いのは農林水産業で総数の40%強、次いで商工業分野の自営業者が25%を占めました。

ところが2007年では、農林水産業はわずか3.9%、自営業者も実に14.3%に落ち込み、代わって年金生活者ら「無職」が過半数を占め、次いで派遣労働者やパートタイマーなどを含む勤め人の順になりました。これは、日本全体の産業構造の激変や高齢化の進展を象徴しています。

国民皆保険となって50年、保険制度が岐路を迎えている今の時代、新しい制度のあり方を模索しなければならないようです。

4月23日 サン・ジョルディの日

そもそも「サン・ジョルディの日」はスペインのカタルーニャ地方の伝統的な祝祭日で、この地域の守護聖人である騎士サン・ジョルディの伝説に由来すると言われています。

この日には大切な人に美と教養、愛と知性のシンボルとして、1本の薔薇と1冊の本を贈ります。男性は女性に花を、女性は男性に本を贈るのが一般的で、家族や友達の間でもプレゼントが交わされます。

日本でも1986年日本書店組合連合会、日本カタロニア友好親善協会等がサン・ジョルディの日と定め、本を贈る日とされています。

サン・ジョルディの伝説は、このようなお話です。

その昔カタルーニャの国には恐ろしいドラゴンがおり、住民たちはドラゴンの怒りを鎮める為に、毎日1人ず

つ生け贄を捧げておりました。

ある日、王様の娘が生け贄になる順番がまわってきました。そしてお姫様が餌食になろうとするその時、真っ白い駿馬に跨がり、黄金に輝く甲冑をまとった1人の若い騎士サン・ジョルディが姿を現し、ドラゴンと激しく戦いました。

サン・ジョルディの槍がドラゴンの心臓を貫き、お姫様を救い出すことができました。そして溢れ出したドラゴンの血は美しい薔薇となりました。サン・ジョルディは、その中でも最も美しい薔薇を、永遠の愛のシンボルとしてお姫様に贈ったのです。

さながら日本では、スサノオのミコトとヤマタノオロチと言ったところでしょうか。クシイナダヒメに大判焼きを贈って愛を誓ったなんて話があれば、その日をブラウンの日にするんですけどね～～

4月24日 1965年「ベ平連」が結成され、最初のデモ行進を行いました。

「ベ平連（べへいれん）」とは、アメリカ軍による北ベトナムへの爆撃に反対し、小田実を代表として組織された「ベトナムに平和を！市民・文化団体連合」のことで、ベトナム戦争に反対する活動をしました。4月24日には参加者1500人に及ぶ大規模なデモが東京、清水谷公園で行われました。

1966年10月16日には「ベトナムに平和を！市民連合」と改称しています。

活動は、『ニューヨーク・タイムズ』紙などへ反戦広告を出したり、日米共同のデモ、反戦米兵に対して脱走の援助をしたり、在日米軍基地内で反戦運動を組織するなどユニークな活動を展開しました。

「ベ平連」の若者たちによる「フォークソングの集い」が東京・新宿駅西口広場で開かれ、毎週土曜日の夕方には「機動隊ブルース」「勝利を我等に」などの反戦歌を合唱しました。3000人もの人が集まって反戦歌を歌ったりもしました。

特に規約も会員名簿もなく何らかの形で平和運動に参加した人や団体を「ベ平連」と呼びました。最盛時には全国で300以上のグループがあったそうです。

60年代末には、労働者の反戦青年委員会や学生の「全共闘」、新左翼諸党派などが共同で組織し、都心で数万のデモを行っています。「ベ平連」の運動と組織のあり方は、その後の市民運動・住民運動に影響を与えたとされています。

1973年1月27日に南ベトナムと北ベトナム、アメリカなどの間でパリ協定が調印され、アメリカ軍がベトナムから全面撤退したので、1974年1月に解散しました。

小田実さんが亡くなったときに、久しぶりに「ベ平連」の名前を耳にしました。まだ最近のここのように思っていたのですが、すでに6年も前のことなのですね。

4月25日 1792年フランス国歌「ラ・マルセイエーズ」が作曲されました。

軽快な行進曲なので、一度聞けばすぐ覚えてしまいます。しかし、歌詞はなかなか物騒です。フランス国内でも、国歌を変える議論が後を絶たないのだとか。

どんな内容かと言えば、

行こう 祖国の子らよ
栄光の日が来た！
我らに向かって 暴君の
血まみれの旗が 掲げられた
血まみれの旗が 掲げられた
聞こえるか 戦場の
残忍な敵兵の咆哮を？
奴らは我らの元に来て
我らの子と妻の 喉を掻き切る！

胸を引き裂けだとか、血の海にとか
仇を討つか、死ぬだけだ・・・とか 怖～い。（しかも長い・・・）
小学校で教えられない残酷な内容なので歌わない学校もあるのだそうです。

1789年に勃発したフランス革命に対して王妃の実家であるオーストリアが武力介入をしようとした。そこで、負けることで再び政権を握ろうとしたルイ 16 世は議会に提案し、革命政府はオーストリアに宣戦布告します。

国境の都市ストラスブールに、その知らせが届いたとき市長のディードリヒは、詩と音楽の才で知られていた工兵大尉のルジェ・ド・リールに頼んで、兵隊を鼓舞する歌を作らせました。

リールは一晚のうちに作詞作曲したといえます。そのときは「ライン軍のための軍歌」でしたが、チラシや新聞に掲載することで、フランス各地に伝わりました。

そして特にマルセイユの義勇兵たちが歌うことで、みんなに広めたので「マルセイユの人」という意味の名前になったそうです。

自由を勝ち取るための革命の歌ですから、圧政に立ち向かう市民の心意気を歌っています。物騒な歌詞ですが、フランスの歴史がそこにある・・・
なかなか変えられないというのも納得ですね。

4月26日 1954年黒澤明監督の映画『七人の侍』が公開されました。

黒澤映画にとどまらず、日本映画の最高傑作といわれています。この年のベネチア映画祭で銀獅子賞を受賞しています。

この映画は黒澤明が初めて作った時代劇で、細かい動作や衣装、ロケーションなど時代考証にも忠実だと言わ

れます。当時としては破格の2億円という製作費と1年の製作期間をかけた超大作です。そして上映時間もなんと207分。

また、コッポラ、スピルバーグ、ルーカスなど多くの映画監督が、この映画に影響を受けたと言っています。この作品が翻案されてアメリカ西部劇『荒野の七人』（1960）がつけられました。他にも多くの追随作品が出ています。

「世界の黒澤、世界の三船」と言われるように、黒澤と三船のコンビによる映画は、お互いを高めあい有名にしていきました。また左ト全もユニークなキャラクターで黒澤映画には欠かすことのない存在となっています。

侍のリーダーである勘兵衛が「勝ったのは百姓たちだ。わたちではない」との述懐は、大地とともに生きる人間、つまり生産する人間こそが勝利者との意味合いです。

いろいろな職業があるけれども、何かを作り出す仕事は尊いものです。ましてや、自然の厳しさを相手に植物を育て、食べ物を作る農業は人間の生命の根源を支える仕事で、すばらしいものだと思います。

就労者が減って、なにかと疎かにされる農業ですがこの有名な映画に、そういうメッセージがあったとは知りませんでした。改めてもう一度見なくてはなりません。

4月27日 1946年初めて婦人警察官62人が採用され初出勤しました。

世界で最初の婦人警官は1891年にシカゴ市警察が採用しました。その後各国で女性の警察官が採用されました。

男尊女卑の風潮が強かった日本では、戦後にGHQの指導があるまで、女性警察官の採用はありませんでした。当初は婦人警察官と呼ばれ、男性の補佐的な仕事や広報の仕事を担当し、逮捕権限を持っていませんでした。

1960年頃から次第に女性の差別的な処遇も減っていきましたが、2000年の男女雇用機会均等法に伴い、名称が「女性警察官」へと変更され、男女で職務の違いは撤廃されています。男性警察官と同じく能力しだいで、どの部門にも配属されますが特殊部隊（SAT）には入隊することができないようです。

そういえば、「太陽にほえろ」などの刑事ドラマも昔の女性職員は、まさに職場の花としての存在だった気がします。でも、最近の刑事ドラマは「ストロベリーナイト」の竹内結子をはじめ、やり手のキャリアもたくさん描かれています。

時代の変化が、そこにもありますね～。姫川さん、かっこいい！！

4月28日 1952年サンフランシスコ平和条約が発効しました。

それによって、アメリカによる占領が終わり主権を取り戻すこととなります。GHQによる検閲や強制もなくなり、各家庭の軒先にも堂々と「日の丸」を掲揚することも出来るようになりました。

そのときのことを、昭和天皇は

「風さゆる み冬は過ぎて 待ちに待ちし 八重桜咲く 春となりけり」

と、占領時代の終わりを春に例えて御歌を詠まれています。

占領時代を「風もの冷たい冬」と言われていますが、どんな苦難があったのか、ほとんど後世の人には伝わっていません。教えられてないからです。臭い物に蓋とばかりに、時が過ぎるのを待って60年以上経過しましたが、日本人は忘れても、忘れない人たちもいます。

サンフランシスコ平和条約と同時に日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約発効し、日本と中華民国の間で日華平和条約が調印されました。日中戦争が正式に終了したのです。

29日は昭和天皇の誕生日で、2007年からは昭和の日となっています。「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」という日です。なんだか奥歯に物が挟まったような感じです。なぜ昭和の時代を喧伝するのか、本当の意味を考えるべきではないかと思います。

4月29日 1945年 アドルフ・ヒトラーとエヴァ・ブラウンが結婚しました。

ヒトラーとエヴァ・ブラウンは、翌30日に自殺しています。時にヒトラー56歳、エヴァ33歳。ドイツの敗戦が確実になり、ヒトラーは自決の覚悟をしていました。イタリアのムッソリーニがパルチザンに捕らえられ処刑され、しかも銃殺死体がミラノのロレート広場で逆さ吊りにして晒されたのを知ると、自分は二の轍を踏まぬように自決後、遺体を焼くように側近たちに命じていたそうです。

エヴァとは知り合ってから16年になっており、愛人関係でしたが、自らの立場を考慮していたのか結婚はしていませんでした。それが最期になって結婚し、二人そろって自殺するとは、二人の間でどんな話し合いがあったのでしょうか？

ヒトラーの所業を考えれば、同情はありません。しかし、彼とともに一生を終えようと思ったエヴァには、ヒトラーのいいところがたくさん見えていたに違いありません。人の生涯を見てみれば、山が高ければ、谷も深いというか、偉業を成し遂げた人は、不幸も大きく、世間を騒がした人は、それなりの報いがあるように思われます。

平凡が一番。何もないことが幸せ・・・ブラウンが美味しいって言ってもらえると、もっと幸せ！！

4月30日 図書館記念日

1950年4月30日に図書館法が公布されたことにちなんで1971年に制定されました。

図書館とは、図書、記録などを収集して人々の調査研究、教養やレクリエーションに供する施設です。また図書館法は、その目的を「公共図書館の設置および運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、国民の教育と文化の発展に寄与すること」として定められたものです。図書館法の草案には岡山四聖人の山室軍平の娘で、婦人運動家の山室民子も関わったそうです。

図書館と言えば、岡山県立図書館は貸し出し冊数が全国1だそうです。岡山城の見える明るい館内は、文化の殿堂にふさわしい建物で岡山県人の誇りですね。

最近では、調べ物をインターネットで簡単に出来るようになりましたが、それでも図書館で調べたいと思う事柄も少なくないですし、知りたい内容がある本だけでも買うほどでもないと言う本、ちょっと読んでみたい小説、とにかく、たくさん読ませたい子供の本など、やっぱり図書館は便利ですね。

ところで、先日開館した佐賀県の武雄市図書館はツタヤが運営管理して、日本全国誰でも「図書利用者カード」を作ることが出来るのだそうです。館内のレイアウトや雰囲気も一般的な公共図書館とは異にしています。連日、大勢の人が訪れ利用者の4割は県外の人だそうで来館者数は今までの5倍、貸し出しは2.2倍になったそうです。

スターバックスが入っているので、コーヒーを飲みながら本が読めるとか、夜9時まで開いているとか年中無休とか、さすが民間企業の運営ならではのようです。

この図書館については賛否両論、いろいろな意見があるようですが、新しい試みであることには違いありません。何事もメリットばかりではないでしょうが、今後どのように進展するのか気になるところです。岡山にそんな図書館が出来たら、行ってみたいものです。